

# 宮崎県花き振興計画の概要

目標年度: 令和8年度  
計画期間: 令和4~8年度

## 本県花きを取り巻く状況と課題

### ■本県花きを取り巻く状況

#### 【生産】

○本県では、冬季温暖多照な気候条件を生かした産地づくりにより、日本一の産出額を誇るスイートピー等、多様な品目で産地化が図られている。  
○しかし、輸入花きの増加や生産者の高齢化等により、産出額は平成11年から減少傾向となり、令和2年の産出額は60億円となっている。

#### 【担い手】

○本県花きの生産者数は654名(令和2年)であり、花きの新規就農者数は、他品目に比べて少ない状況にある。  
○新規就農者の品目は、近年、キク・ユリ・コチョウラン・シキミが多くなっている。

#### 【オリジナル品種】

○スイートピー、デルフィニウム等の品目では、総合農業試験場や産地において、多数のオリジナル品種が育成され、そのオリジナル性を生かした有利販売が展開されている。

#### 【輸出】

○県産花きの輸出は増加傾向にあり(令和2年実績 975千本)、主に、北米・アジア地域へ輸出されている。特に本県のスイートピーは海外から高い評価が得られており、輸出額の約8割を占める輸出切り花の代表となっている。

#### 【消費】

○全国の1世帯あたりの切り花購入金額は減少傾向(R2年:8,152円)。宮崎市における購入金額は全国43位で低い水準にある(R2年 宮崎市: 5,549円)。  
○県内での消費拡大対策は、県内花き関係者で組織する「みやざき花で彩る未来」推進協議会を主体に「花育活動」や、メディア・SNSを活用した花き消費拡大の宣伝など、積極的に実施されている。

### ■課題

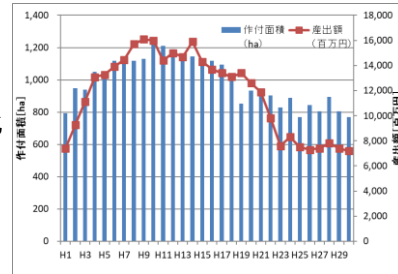
【生産】 ・気候変動への適応 ・複合環境制御技術等の導入による高収量・高品質化  
・中山間地域における花き産地の拡大

【担い手】 ・担い手の確保・育成 ・雇用型大規模経営体の育成

【オリジナル品種・販売】 ・オリジナル品種等を生かしたブランド産地化による有利販売の展開  
・マーケットニーズの高い品目の拡大 ・実需者ニーズに対応した販売体制の構築

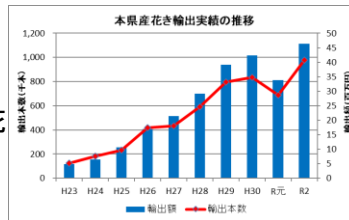
【輸出】 ・更なる輸出の拡大

【消費】 ・消費拡大対策の継続、推進



順位	品目名	生産額(億円)
1位	コチョウラン(鉢物)	13.4
2位	ユリ	9.8
3位	スイートピー	6.9
4位	キク	5.4
5位	シキミ	2.8

資料: 市町村報告



## 基本目標

本県の強みを活かした産地づくり、「みやざきの花」収量・品質の向上

## 花き振興の目標

	【令和元年】(基準年)		【令和8年】(目標年)
作付面積	717ha	→	705ha
産出額	67億円	→	76億円

## 目標達成に向けたアプローチ

### 1 品目

主力品目、振興品目を設定。  
産出額の概ね15%増加を目指す。

### 2 収量の向上

・各品目におけるスマート農業技術導入に向けた技術開発、マニュアル化、複合環境制御システムの導入を進め、スイートピー、キク、バラ等の品目において、現状の平均収量の1.2~1.5倍を目標に収量の向上を図る。

### 3 品質の向上

・各品目におけるスマート農業技術導入に向けた技術開発、マニュアル化、複合環境制御システムの導入を進め、現状より秀品率及び上位規格品の割合を増加させ、販売単価の5%から10%の向上を目指す。

### 4 省力化及び低コスト化

・スマート農業技術の導入による栽培管理作業や出荷調整作業等の省力化を図り、低コスト化につながる栽培技術を開発し、導入を推進する。

### 5 販売力の強化

・輸出拡大、マーケットニーズの高い品目の産地拡大、実需者ニーズに対応した販売体制の構築、オリジナル品種等を生かしたブランド産地化による有利販売、消費拡大対策に取り組む。

### 6 担い手及び雇用確保

・花きの新規就農者を10名/年以上確保するとともに、県内花き生産者数650名を確保しながら、目標達成を目指す。また、外国人労働者等を活用し雇用労力の確保を図る。

項目	品目名
主力品目 ※生産額1億円以上の品目	コチョウラン、ユリ、スイートピー、キク、シキミ、バラ、ダリア、ランシキヤス
振興品目	トルコギキョウ、デルフィニウム、ホオズキ、キイチゴ、宿根性スイートピー「ブルーフレグランス」、りんどう

## 施策の具体的な展開方向

### ○気候変動に負けない花き生産の推進

①施設内環境改善の推進、②高温等気候変動に対する新技術の開発・普及

### ○高収量・高品質化を実現する次世代型花き生産の推進

①各品目におけるスマート農業技術の導入に向けた技術開発・マニュアル化、②複合環境制御システムの導入推進  
③省力化及び低コスト化の推進、④雇用労力の確保

### ○中山間地域における花き産地の拡大

①シキミの産地維持拡大、②ランシキヤス、ホオズキの更なる産地拡大、③りんどうの産地化の推進

### ○輸出先ニーズに対応した生産による輸出の拡大

①輸出先ニーズの高い品種、品目の導入推進、②輸出に対応した鮮度保持技術の確立、良日持ち性品種の導入推進、  
③輸出パートナーとの協働による販路開拓・販売促進

### ○マーケットニーズの高い品目(キイチゴ、りんどう等)の拡大

①生産安定技術の確立、②関係機関の連携による推進体制の強化、③現地における経営モデル実証、  
④消費地における需要拡大推進

### ○実需者ニーズに対応した販売体制の構築

①顧客分析等による販売戦略の構築、②日持ち認証制度の取得推進、  
③大手量販店等や花束加工業者等との契約販売の推進、④新たな需要に対応した販売体制の構築

### ○オリジナル品種等を生かしたブランド産地化による有利販売の展開

①オリジナル品種の普及推進、②優良種苗供給体制の強化

### ○花き関係者の連携による消費拡大対策の推進

①花育活動の拡充、②県民参加型イベントの開催、③新たな物目の提案、④県産花きPR

### ○産地での研修や就農後のフォローアップによる担い手の確保、育成

①産地における研修体制の整備、②離農希望者からの経営資源(施設・技術等)の継承推進、③生産者組織等の研修会を通じた担い手の資質向上

### ○企業的な経営感覚を持った雇用型大規模経営体の育成

①経営管理能力の高い生産者の育成、②周年雇用型経営モデルの確立・普及、  
③補助事業の活用や施設の継承による規模拡大の推進

気候変動への適応や  
環境制御技術の導入等による  
生産力の向上及び省力化

輸出の拡大やマーケットニーズの  
高い品目の拡大等による  
販売力の強化

花き産地の  
未来を担う  
人財の育成